



歯科衛生士 柴山のはつと話す話

歯ブラシのお話

今回は歯ブラシについてお伝えしていきますね。まず、歯ブラシの選び方についてです。歯ブラシは大きすぎても小さすぎても清掃効果が低くなってしまいます。自分のお口の中の状態や磨き方によって大きさや毛先の形を選ぶのが大切になってきます。次は、歯ブラシの交換時期についてです。よく言われているのは毛先が開いてきだしたら交換。でもなぜ開いてきたら交換なのでしょう？それは毛先が開くとプラーク(歯垢)の除去率が低下してしまい、さらに歯肉を傷つけることもあるからです。また、毛先が開かなくても長く使っていると、毛の弾力がなくなり効果が半減します。なので1ヶ月に1本を目安に取り換えるといいですよ。

～いけがみ歯科は、頑張るあなたを応援しています～

歯っぴ～通信

平成 23 年 5 月号 Vol.40

震

災の報道と自分の現実と・・・

東日本大震災で、被災された方に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興を願っています。こんにちは、いけがみ歯科クリニック院長の池上誠です。五月になりましたね。桜の時期も過ぎ、いつもと変わらないかのように、ときが流れていますが、やはり震災のことが、毎日、頭をよぎります。先日、テレビ番組の中である歯科医師が、避難所を回り、年輩の方の診察をし、入れ歯を丁寧に洗う場面が放送されました。入れ歯の汚れは、虫歯菌や歯周病菌などの菌類を増やすとともに、そのことが引き金になって誤嚥性肺炎を起こしやすいのです。寝たままの格好で長期間過ごすことによって、それらの細菌が気道側に入り肺炎になるのです。避難所生活が続くとストレスで唾液の量が減り、余計にそのリスクが高まるんでしょうね。上水道が復旧していない場所では、水が貴重なために歯みがきは後回しになっているようです。少しでも役に立ちたいと、患者さんから入れ歯を預かり、その入れ歯を丁寧に掃除している歯科医師の姿にとっても感銘を受けました。私自身の目の前にある現実である日々の診療の中で、歯科医として何に取り組み、関わりある方々に何を伝えるべきなのか、考えさせられた報道でした。

院長 池上誠

歯科的個人識別という仕事も

東日本大震災では、身元不明のままで亡くなった方がたくさんいらっしゃいます。歯科業界全体として取り組める仕事の一つに、「歯科的個人識別」というものがあります。現代においてはDNA鑑定による個人識別もできるのですが、今回の震災でも多くの歯科医が、地元県警に依頼され歯科的個人識別に携わっているようです。過酷な仕事であるために詳細を書くのはやめておきますが、現地で頑張っている歯科医のみなさんがいることを知っていただきたいという思いと、自分への励ましのつもりで、紹介させていただきました。

患者様の声～あなたの声を聞かせてください～

毎月、このスペースでは、治療後に寄せられた患者さまの声を掲載しています。

ほんとうに、私の方こそ、良いご縁ができてよかったと思っています。よろしくお願いします。

(岡山市：森川妙子さん)

〒700-0827
岡山市平和町6-27
WAKAビル2F
発行：池上誠



歯科・口腔外科・小児歯科・
レーザー治療・予防歯科・
インプラント・ホワイトニング
西川治い・岡山駅から0分
いけがみ歯科クリニック
(086)23 7731